

(別紙資料)

1. 機材繰りの一例

- ・沖縄－青島－成田 沖縄からは沖縄貨物ハブのネットワークを活かし、日本およびアジアから組み立て工場の比較的多い、青島へ輸送される貨物を取り込む。
一方、青島発は電子製品の完成品など、日本や欧米マーケット向けの出荷が多い為、沖縄を経由せず、成田に輸送し、成田からのネットワークに接続させる。
- ・沖縄－シンガポール－成田 上記同様、シンガポールへは、沖縄を経由し、様々な出発地からの貨物を輸送する一方、シンガポール発については、消費マーケットである日本や欧米への輸送を取り込む。

このような機材繰りを行うことにより、沖縄貨物ハブに1路線開設すれば、様々な輸送可能区間が増え、今回の新規開設により、2014年5月時点では、現時点よりも20区間の拡大となる。

2. 沖縄貨物ハブ新規路線の一例(リードタイム短縮例)

■(これまで)現在の上海－シンガポールの輸送例・リードタイム

DAY-1 上海－那覇(00:35－3:40)
DAY-2 那覇－成田(6:20－8:40)
成田－シンガポール(17:20－23:50)
DAY-3 配送



■(今後)沖縄－シンガポールの開設による輸送例・リードタイム

DAY-1 上海－那覇(00:35－3:40)
DAY-2 那覇－シンガポール(5:10－9:20)
配送

那覇－シンガポール線を開設することにより、例えば上海(浦東)－シンガポールのリードタイムが、約14時間(ほぼ1日)短縮可能となり、夕方に上海(浦東)空港に搬入された貨物は、沖縄貨物ハブネットワークを経由することで、翌朝の9:20にはシンガポール空港に到着することができる。